

伊豆佐野は三島の辺境か!

何年も放置された生活基盤

三島市伊豆佐野は三島の最北端、裾野と接する農業中心の集落。芙蓉台からは山越えなければならず、知らない人は裾野と間違えることもある。畑や田んぼが続くのかな田園風景は昔前の日本の情景を色濃く残している。都会から一足踏み入るとホットした気分になる。

しかし、地元の人達は決してそんなのん気なことを言っていない。これまで長い間、三島の市政から取り残されてきたからだ。

伊豆佐野は都市計画法でいう「市街化調整区域」に指定され住宅建設や開発行為等が制限されている。そのせいでもあるまいが、これまで道路や側溝は殆ど放置された



伊豆佐野の上之橋(裾野との境)

また、秋ヶ窪と佐野を結ぶ市道1号線は何十年も変わらぬまま、道幅も狭く車道と歩道の区別も無く、お年寄りや子供にとっては危ない道となっている。市側はお金が無いというが、

また、秋ヶ窪と佐野を結ぶ市道1号線は何十年も変わらぬまま、道幅も狭く車道と歩道の区別も無く、お年寄りや子供にとっては危ない道となっている。市側はお金が無いというが、

私立幼稚園に通う子育て世代への就園奨励金カット問題

有志による署名運動を実施

私立幼稚園保護者への就園補助金は、平成十三年に私立幼稚園協会と保護者からの請願を受け、平成十四年度から実施されていた。今回カットされたのは、市単独の事業で、私立幼稚園に通う家庭の園児一人につき、年2万円の補助金が支給されていたからだ。

関係者によると、市側の態度は「あたかも高所得者だから仕方ない」という。財政の割振りの問題だ。それは、財政の割振りの問題だ。農業中心の集落といっても、多くの農家は後継難で、農業の継続も難しい家が多いと聞く。「市街化調整区域」が重くのしかかり、この先、伊豆佐野の町づくりをどのように進めて行くのか、三島市政の責任ある人達は、これ以上無視を続けることは出来まい。

また、秋ヶ窪と佐野を結ぶ市道1号線は何十年も変わらぬまま、道幅も狭く車道と歩道の区別も無く、お年寄りや子供にとっては危ない道となっている。市側はお金が無いというが、

小出正吾先生誕生110年記念講演会

並びに総会と懇親会のご案内

三島の生んだ児童文学者 小出正吾先生誕生110年記念講演会のお知らせ!

日時 五月十六日(土)
午後1時から総会
午後1時40分から記念講演会
講師 東京学芸大学 名誉教授 根本正義氏

会場 三島ラザホテル 別館(アクセスラザ) 5000円
(講演会のみは無料)

問合せ 三島市中央町八の八 山口 九七一 三三四八 三島市立図書館の台二五九の三 鷲見 九七五 一七五八

象無敵

一九四七年、五月三日、敗戦の苦渋の中から、日本国憲法が公布された。それから六〇年、昨春秋、小泉首相の後を継ぎ、憲法改正を最重要課題とする安倍首相が誕生。彼の祖父は誰も知っている岸信介元首相だ。

岸信介は戦前、満州で権力を握り、その後東條内閣で商大臣。戦後にA級戦犯容疑で逮捕された。アメリカの戦後方針が冷戦の中で反共に転換したことから不起訴となり、公職追放を解除された。その後、「自主憲法制定」、「自主軍備確立」、「自主外交展開」をスローガンに、「日本再建連盟」を設立。昭和28年、「自由党」公認候補として衆議院選挙に当選。右翼と結び、抜け目なく中央舞台へ進んだ。

昭和29年、吉田首相の「撃退共対米協調」路線に反発し、自由党を除名されるが、「日本民主党」を結成し、幹事長に就任。その後、鳩山一郎や三木武吉らと共に、自由党と民主党の保守合同を主導。昭和30年に新たに結成された自由民主党の初代幹事長に就任した(同年には左右両派に分裂していた日本社会党が再び合同し、いわゆる「55年体制」が出来上がった)。57年首相に就任。60年日米安保条約を締結。反安保の国民的盛り上がりの中、退陣。政界引退後も影響力を持ち続け、「昭和の妖怪」と呼ばれ、統一教会や児玉誉士夫との密接な関係が非難されることもあった。(ウエブ百科事典参考)

交差する歴史

四月十七日、三島文化会館で映画「日本の青春」を見た。監督は大島豊(七一歳)。内容は日本国憲法誕生の真相を明らかにした劇映画であった。今までよく知られていなかった憲法誕生の内幕に、そつだつたのかという思いで引き込まれてしまった。

押し付け憲法であったのか?

GHQは、当時の保守的な明治憲法とほとんど変わらない政府草案に対して、鈴木等の「憲法草案要綱」の存在と価値を高く評価した。政府草案採用拒否の姿勢をはっきり示す中で、鈴木等の「憲法草案」を取り入れ、これがGHQ草案として、日本国民に示されることとなったのが真相だった。

は自民党の一部の人達から「押し付け憲法」というレッテルを貼られてきた。だから「自主憲法制定を」という主張や改憲の動きの中で、今、その存続が危ぶまれている。しかし、この映画を見れば、それらの考えが

決してGHQが勝手に作った押し付け憲法ではなかったのだ。鈴木安蔵は、百一十年前の明治初期に、自由民権運動の指導者の一人だった植木枝盛の研究者であった。彼は軍国主義体制の中で不当に弾圧

決してGHQが勝手に作った押し付け憲法ではなかったのだ。鈴木安蔵は、百一十年前の明治初期に、自由民権運動の指導者の一人だった植木枝盛の研究者であった。彼は軍国主義体制の中で不当に弾圧

せせらぎ事業は何だったのか?

三島市は湧水の復活をめざせ!

街中がせせらぎ事業は、平成八年度の三島商工会議所50周年事業の関連から始まった。その目的は、市中心街にある歴史、文化、水辺や緑の自然環境を活用し、周辺を快適な空間に作り上げ、魅力ある地域づくりを目指す。また、中心市街地の居住人口や観光客を増加させ、商業等の活性化により、元気な三島とするのと、整備期間は平成13年度、17年度、総事業費は約十三億七千万円。その内、県補助金は約三億六千万、起債(市の借金)八億三千万、国交付

金一千七百万、残りが一般財源からこれまで国土交通大臣賞や都市景観大賞など、数々の賞を受賞したと市当局者は胸を張る。しかし、市中心部に多額のお金を投入し、周辺部の格差が広がるばかりだとの声も聞く。また、この事業の中心、源兵衛川の水は、東三島工場の冷却排水をヒューム管で楽寿園に流して、本来の湧水ではないという。三島市は昭和40年、東三島の汲み上げによる地下水減少に伴い、三島南部の農業用水を確保するために、事業費二二七二万円支出して東三排水を毎秒1、源兵衛川に流す工事を行った。本来、観光などで三島の水を売りとするなら、湧水を復活させ楽寿園小浜池を名勝・天然記念物として機能させる措置をもっと考えるべきではないのだろうか。

「戦後体制からの脱却」として改憲を掲げて登場してきた安倍首相の原点は何か、押し付け憲法論を展開し、改憲の持論をぶち上げる彼の影には、A級戦犯容疑者、岸信介の実像が透けて見える。また、彼の唱える、美しい国日本」の響きの中に、再び皇国日本を甦らそうとする不気味な気配を感じるのには考え過ぎだろうか。